

## 神奈川県立霧が丘高等学校 第46回卒業証書授与式 校長のこぼ

厳しい冬の寒さも和らぎ、紅梅、白梅が咲き、春の息吹を感じられる季節になりました。この春の良き日に、令和4年度 第46回卒業証書授与式を挙げるにあたり、同窓会長様、PTA会長様ならびに保護者の皆さまのご臨席を賜り、盛大に挙行できますことを高い席からではありますが、厚くお礼申し上げます。

第46期生、364名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、本日をもって10代の多感な時期を過ごしたこの霧が丘高校を巣立っていきます。

皆さんの高校生活の大半は、まさに世界中を覆った新型コロナウイルス感染症に翻弄されたものでした。日本国内初の感染者が報告された年(2020年1月)、皆さんは中学3年生、3月には全国一斉の臨時休校が取られました。4月の入学式は新入生のみ、その後も4月、5月と臨時休校がつづき、6月に分散登校となりました。クラスを半分に午前、午後と分け、週1回から週3回の分散登校、6月末にはやっと時差通学ができたものの40分の短縮授業を3時間しかできませんでした。修学旅行は、予定していた時期を2年次の1月に延期し、2泊に減泊の上、場所も沖縄から長崎に変更となりました。この間、第1波から第8波までの感染の波を繰り返しながら、何とか霧高での学びを継続し、今日、卒業式を迎えることとなりました。

しかし、私は、そうした中であっても奮闘した皆さんの頑張りを讃えたいと思います。

皆さんは、霧が丘高校で、多くのことを自らの力で考え、学び、実践されてきました。また、部活動や学校行事を通して、自ら「生きていく力」を育み、多くの友人を得て、大きく成長されました。

今日、私は、皆さんに一つのメッセージを送ります。

それは、「独創的で柔軟な人であれ」ということです。

リクルートという企業から東京都の民間人校長になられ、活躍された藤原和博さんという方がおられます。彼は、こんなことを言っています。

これまでの社会で価値があるのは「みんな一緒」、これからの社会で価値があるのは、「それぞれ一人ひとり」。特にこれからの社会で稼ぐには、「自分の希少性をあげる」ことが重要。また、「みんな一緒」の社会では、「正解」を素早く言い当てる力、すなわち「情報処理力」があれば成功できたけれど、「それぞれ一人ひとり」の社会では正解はなく、「情報処理力」よりも「情報編集力」が求められる。つまり、自分の知識・技術・経験に、他者の知恵や技術もたぐり寄せて、実行しながらかつ修正し続けていく編集力である。そうした力を持った者が成功し、活躍すると述べています。

「自分の希少性をあげる」こと、かつ「情報編集力」を持つこと。それが、個人の成功につながり、かつこれからの社会で求められる人材になると思います。

インクルーシブ教育実践推進校に指定され、その一期が46期生、皆さんの学年です。「みんな一緒」ではなく、「それぞれが個性を発揮」する。そして、他者を排斥するのではなく、他者とリベラルにつながることを大切にすることです。

別のことばで言えば、「独創性」と「柔軟性」を大切にすることです。

そして、今卒業という節目に際し、皆さん方に望むのは、改めて人生において「独創的かつ柔軟であれ」ということです。それらを意識しさらに磨いていってほしいと期待します。

独創的というのは、「目立ったことをする」とか、「奇をてらう」ということではありません。そうではなく、自分が本当に大切にしたいことをやる。自分が実現したい価値を大事にする。そのことが結果として、「人の歩いていない道を歩む」という独創性につながると思います。

昨年の卒業式で、私は、キング牧師の有名な言葉を紹介しました。夢や希望を持つことは、とても大切なことです。そして、それぞれの夢を実現させるために必要なことは、自分の力を信じること、諦めないこと、努力し続けることです。これから始まる新しい生活の中で、さまざまな学びや体験を通じ、できるかぎり多くの知識を吸収してください。何事にも失敗を恐れずチャレンジしてください。強い志さえあれば、必ず自分の夢はかないます。

皆さんのご活躍を期待しています。

最後に、ご参列の保護者の皆さま方にお礼申し上げます。担任の呼名に凜として立つ我が子の姿勢に感慨もひとしおかと存じます。

これまで、霧高の教育にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございました。

教職員一同になり代わりまして、改めて厚くお礼申し上げます。

結びになりますが、46期生364名の皆さんの前途洋々たる人生を心から祈念し、校長のことばといたします。

令和5年3月2日  
神奈川県立霧が丘高等学校長 内田 勝久